

平成 29 年 2 月 27 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 2 回「原子力アゴラ」特別専門委員会
開催日時	平成 29 年 1 月 18 日(水) 14:30 ～ 17:00
開催場所	日本原子力学会事務局会議室
参加人数	10 名 池上徹彦、上坂充、上塚寛、大井川宏之、駒野康男、佐藤修彰、田中隆則、中島健、峯尾英章、村山洋二
議 事	資料: 資料 2-1: 原子力アゴラ拡大幹事会・研究炉役割検討・提言分科会議事録(案) 資料 2-2: 平成 28 年度第 1 回研究炉等役割検討・提言分科会議事録(案) 資料 2-3: 新規制基準への対応について 資料 2-4-1: JAEA・JRR-3 等の状況について 資料 2-4-2: グレーデッドアプローチに関する国際協力の可能性について(調査) 資料 2-4-3: Consideration of possibilities of international activities related to the graded approach in safety regulations for Research Reactors 資料 2-5-1: 大学等核燃および RI 研究施設検討・提言分科会設置について 資料 2-6: 2017 年春の年会(3/27-29)企画セッション提案書(案) 資料 2-7: 核燃料サイクル成立のシナリオ検討研究専門委員会について 議事 1. 上坂主査から原子力アゴラ拡大幹事会・研究炉役割検討・提言分科会議事録(案)の説明がなされ、議事録は了承された。 2. 峯尾委員から第 1 回研究炉役割検討・提言分科会議事録案の説明がなされ、概略までを議事録とすることです承された。 3. 中島委員から資料 2-3 を用いて、KUR 及び KUCA の新規制基準対応の状況が報告された。 4. 村山委員から資料 2-4-1 を用い、JAEA の試験研究炉の状況と JRR-3 の新規制基準対応の状況が報告された。また、資料 2-4-2 を用い、岡嶋委員が OECD/NEA と試験研究炉のグレーデッドアプローチに関する協力の可能性について資料 2-4-3 を用いて協議し、先方は詳細な情報を十分有していないため、OECD/NEA の NS や DB だけでは本件は対応しきれず、Nuclear Safety との連携も必要なこと、また、協力については課題を選出しその課題を NEA のどの部署で行うか検討すること等が報告された。 田中委員からは、原子力安全については NEA の常設委員会には CSNI や CNRA があり、CSNI(議長は更田規制委員)は施設安全を、CNRA は安全規制を扱っている。このため、規制の問題は CNRA に持ち込めればよいがメンバーが規制機関のみのため、本件は IAEA に提案する方がよいのではないか、との意見があった。また、OECD のネットワークを生かして我が国独自の調査を行ってもよいのではないかとの意見もあった。

	関連して、昨年の IAEA が開催した研究炉に関するワークショップについて、村山委員から、1F 事故以降の研究炉の安全評価がテーマであり各国から各炉の状況についてレポートが出されているとの報告があった。 5. 佐藤委員から資料 2-5-1 を用いて、大学等における RI 及び核燃料使用施設の現状の調査と IRRS 規制への対応等に関する課題や問題点を洗い出し、提言を行うことを目的とする分科会の設置について説明があった。当該分科会については、既に昨年末にメールによる審議を行い、原子力アゴラ特別専門委員会の下に設置することとされている。次に示す意見があり、これらを踏まえて、分科会を学会開催前に 2 回開催することとした。なお、29 年度からは旅費支給等の観点から、調査専門委員会として立ち上げる方がよい、との意見があった。 ・研究炉の役割検討では人材育成の観点で課題を浮き彫りにしたが、使用施設ではどのような視点で課題を見せていくのか、まず検討が必要である。対象を大学の使用施設のみとするかについても検討すべきである。 ・オールジャパンの視点が必要で適切なタイミングで原子力機構もオブザーバとして加えるべき。また、規制のわかる人間も加えるべきである。 6. 佐藤委員から資料 2-6 及び 2-7 により、春の年会での企画セッション提案書と、再処理リサイクル部会で立ち上げようとしている核燃料サイクル成立のシナリオ検討研究専門委員会の紹介がなされた。 7. 主査より、3 月 15 日に学会長記者会見を予定しており、研究炉に関する、規制も含めた課題、使用施設の課題、さらにもんじゅ・核燃料サイクルの課題を合わせて扱う予定であるとの紹介があった。 8. 大井川委員から、文科省では原子力研究基盤整備に関し原子力科学技術委員会の下に作業部会を立ち上げる予定であることが紹介され、そこへインプットしていくことも考えられるとの意見があった。
備 考	

平成 28 年 7 月 5 日

専門委員会開催報告

専門委員会名	第 1 回「原子力アゴラ」特別専門委員会
開催日時	平成 28 年 6 月 15 日(水) 10:30 ～ 12:00
開催場所	日本原子力学会事務局会議室
参加人数	7 名 上坂充、上塚寛、岡嶋成晃、田中隆則、長谷川秀一、峯尾英章、村山洋二
議 事	資料: 資料 1:「原子力アゴラ」特別専門委員会延長申請書 資料 2:平成 27 年度活動報告書 資料 3:第 8 回 研究炉等の役割検討・提言分科会 議事録 資料 4:第 9 回 研究炉等の役割検討・提言分科会 議事録(案) 資料 5:【JRR-3 原子炉施設】新規規制基準への適合性確認の概要 資料 6:【6 月学会長記者会見案】 資料 7:核燃料施設等の新規規制基準施行後の適合確認のための審査の進め方の見直しについて(案) 議事: - 資料 1, 資料 2 に基づき今回の幹事会の趣旨説明がなされ、委員会継続が確認された。 - 資料 3 が紹介された。 - 資料 4 が了承された。これと関連して、以下のように議論された。 グレーデッドアプローチに向けたデータ整理が必要であり、そのまとめ方をどのように行うべきか。海外との情報共有をどのように行っていくべきか。これらについて、対象とする研究炉をどのように進めていくか、規制庁の動向を見ながら、最優先で対応していくことが確認された。あわせて、日本の研究炉がどのようにすべきか提言も必要である。 - 資料 5 に基づき、JRR-3 の審査の現状について村上委員から説明がなされた。これと関連して、以下のように議論された。 基準地震動が決まるのは今年の 8 月と思われるが、耐震評価に一番時間がかかっている。IAEA においては research reactor の safety standard は公開されているので、それを国際標準として位置づけ、学会として検討していくことが提案された。 - 資料 6 が紹介された。これと関連して、以下のように議論された。 研究炉に関して、連続シンポジウムを開催することが提案された。あわせて、リスク安全部会との意見交換が重要との指摘がなされた。春の年会での企画セッション(アゴラ・安全部会の合同セッションなど)の可能性を検討することとなった。 - 資料 7 が紹介された。これと関連して、以下のように議論された。

	低出力はこれまで非公開だったが、公開となった。規制庁としても急ピッチで進めるとの意図を読み取ることができる。 7. その他 資料4で提案がなされているように、キャノングローバル研究所の段氏にアゴラ委員会で講演をお願いすることが確認された。また、発電だけでなく、地球環境や核燃料サイクルの重要性についても今後目配りしていく必要があることが指摘された。
備 考	